

施策マネジメントシート1(平成 31 年度目標達成度評価)

更新日 令和 2 年 6 月 25 日

事業番号 0030000021

総合計画体系	政策No.	01	政策名	子どもがいいきと輝きみんなで教育・子育てを支えるまちづくり	施策主管課	学校教育課
	施策No.	02	施策名	学校教育の充実		
関係課		教育総務課, 学校給食課, 学校教育課				

1 基本計画期間(平成 30 年度～ 令和 3 年度)における「施策の方針」 重点施策

- 児童・生徒が「わかった!」「できた!」を実感し、学力を身につけることができるように、授業に対する姿や表れから、授業改善の取組を検証し、さらなる授業改善を進める。
- 児童・生徒が自分のよさを実感し、豊かな心をもつことができるように、情操教育や生徒指導体制・相談体制の充実を図る。
- 子どもが主体的に体を動かしながら運動に親しみ、運動が好きになるような取組を授業や行事の中で進める。
- 学校力を高め、児童・生徒一人ひとりの生きる力が育つ学校づくりのために、教育センターを活用して、教職経験年数や職務に応じた各種研修会の実施など、教職員の資質向上に向けた支援を行う。
- 安全・安心な学習しやすい環境を維持・確保するため、学校の施設・設備や学校給食施設の充実を図る。

2 施策の目的(①対象③意図)と指標(②対象指標④成果指標)等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		市内小・中学校の児童・生徒							
②対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	数値区分	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)
A	児童・生徒	人	見込み値	10,792.0	10,571.0	10,555.0	10,407.0	0.0	0.0
			実績値	10,979.0	10,995.0	0.0			
B			見込み値						
			実績値						
③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		学力・体力を身につけ、豊かな心をもつことができる							
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)
A	知～授業内容を理解する小・中学生の割合	%	目標値	83.0	83.2	83.4	83.6	0.0	0.0
			実績値	83.0	83.7	0.0			
			達成率	100.0%	100.6%	0.0%			
B	徳(心)～自己肯定感をもつ小・中学生の割合	%	目標値	77.0	77.0	77.0	77.0	0.0	0.0
			実績値	76.6	78.3	0.0			
			達成率	99.5%	101.7%	0.0%			
C			目標値						
			実績値						
			達成率						
D			目標値						
			実績値						
			達成率						
E			目標値						
			実績値						
			達成率						
F			目標値						
			実績値						
			達成率						

⑤成果指標の測定方法 (実際に成果指標の実績値をどのように把握するのか)	⑥基本計画期間における施策の目標設定とその根拠
A: 静岡県教育振興計画「『有徳の人』づくりアクションプラン」調査より「授業がわかる」が4段階の3以上の児童生徒の割合として把握 B: 同上調査 「自分にはよいところがある」が4段階の3以上の児童生徒の割合として把握。	県で行っている調査を活用することで、より客観的で、より広い範囲での児童・生徒の実態をつかむことができる。 ABともに、平成24年度～28年度の5年間の実績値から目標値を設定することで、現実的な目標となると判断して設定した。

⑦施策コスト (トータルコスト=事業費+人件費)		単位	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)	
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	6,508	7,887	10,828	10,828	10,828	10,847
		都道府県支出金	千円	0	57	1,274	1,274	1,274	1,274
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	658,724	541,822	671,156	584,959	584,959	4,780
		一般財源	千円	1,033,746	1,198,250	1,313,587	1,413,450	1,309,996	1,013,831
事業費計 (A)		千円	1,698,978	1,748,016	1,996,845	2,010,511	1,907,057	1,030,732	
人件費	正規	職員従事人数	人区	27.4	23.7	28.5	28.3	28.2	15.1
		職員延業務時間数	時間	52,679.0	45,438.0	54,679.0	54,380.0	54,128.0	28,935.0
		職員人件費	千円	222,990	205,743	256,882	255,477	254,293	130,410
		人件費計 (B)	千円	222,990	205,743	256,882	255,477	254,293	130,410
経費		その他	千円	0	0	0	0	0	0
		経費計 (C)	千円	0	0	0	0	0	0
		トータルコスト(A)+(B)+(C)	千円	1,921,968	1,953,759	2,253,727	2,265,988	2,161,350	1,161,142
この施策の事務事業数		本数	56	56	56	56	56	56	

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

ア) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)

・家庭において、子どもの発達段階に応じた望ましい生活・学習習慣を身に付けさせる。
 ・「読み聞かせ」や学習ボランティア等、趣味や特技を学校での教育活動に活かし支援する。また、「職場体験学習」や「地域見学・探訪」等で学校から外に出てくる子どもたちの学習活動を支援する。さらに、「子ども見守り隊」等の活動により、安全・安心な学校づくりの支援を行う。

イ) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

・小・中学校の施設・設備の充実を通して、安全・安心な学習環境を確保・維持する。
 ・新学習指導要領への対応等を含め、教材教具・備品等の整備を通じて、質の高い学習環境を確保・維持する。
 ・学校・子どもが必要とする支援員の配置など、個に応じた指導・支援を進める上で人的な支援を行う。
 ・教員が児童生徒への教育へ力を注ぐことができるように、対応の難しい保護者や学校と連絡が取れない家庭、指導が難しい不登校児童生徒などの対応を行う。
 ・生涯にわたって自分の健康を保持増進しようという意識を高める食育指導を進めるとともに、安全で栄養的にも優れた魅力ある学校給食を提供する。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化したが、令和2年度を見越して、今後どのように変化するか?

・学習指導要領がR2年度は小学校、R3年度は中学校が全面実施となる。「主体的・対話的で深い学び」授業において実践できるように各学校、各教員が授業改善に取り組まなければならない。
 ・道徳の教科化、小学校英語の教科化、プログラミング教育の必修化等が盛り込まれている。
 ・不登校児童生徒や貧困家庭、学校と良好な関係を築くことができない家庭が増えている。
 ・GIGAスクール構想により、1人1台のタブレットパソコンが児童生徒に配置される。
 ・令和元年12月に国が打ち出したGIGAスクール構想に基づき、小中学校の校内通信ネットワークと児童生徒一人1台のPC端末の整備を図ることとなり、教育のICTが一気に推進される。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

・児童生徒が安心安全な中ででの学校生活についての関心はとも高く、施策の充実が強く求められている。
 ・学力の確実な定着が求められる一方で、いじめ問題や不登校、問題行動等の状況に高い関心が寄せられている。
 ・教員の働き方改革による外部指導者や部活動指導員の充実の要望が多い。
 ・不登校児童生徒や対応が難しい保護者の増加により、教員本来の業務に専念できない教員が増えている。
 ・増加する外国人児童生徒等を支援する事業の充実が求められている。
 ・最先端でなくてもよいので、教育のICT化に向けた環境整備を着実に進めてほしい。

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(平成31年度の目標と実績との比較)

成果指標名	単位	平成31年度成果指標の達成度			結果
		目標値	実績値	達成率	
A 知～授業内容を理解する小・中学生の割合	%	83.2	83.7	100.6%	○
B 徳(心)～自己肯定感をもつ小・中学生の割合	%	77.0	78.3	101.7%	○
C					
D					
E					
F					

*平成31年度施策の成果指標の達成状況及び要因

・Aについては目標を達成した。焼津市として、前年度の学校訪問を通して明らかになった課題を解決するため、授業改善の重点を明確に示し、指導助言を行ってきたため。また、各校が指導助言を生かし、授業改善に取り組んでいるため。
 ・Bについては目標を達成した。焼津市が行っている学校訪問時に児童生徒の良い点を伸ばすための指導が、その後各校で生かされている。また、問題行動や不登校、いじめなどの様々な問題や発達障害児、外国人児童生徒などに対応する事業や支援員の配置、指導体制の充実に取り組んだため。

※○:目標達成 △目標をほぼ達成(達成率95%以上) ×:目標を未達成 指標名に(ー)があるものは、目標値より実績値が低いものを達成とする

② 施策の振り返り(住民と行政の役割分担を踏まえて、施策の目標達成に向けて、基本計画で掲げた「施策の方針」及び「基本事業の取り組み方針」にどのように取り組んだか。)

・焼津市としての授業改善の重点を示し、学校訪問で指導助言を行い、各校が精力的に校内研修に取り組んだことにより、子どもの学習内容の理解が高まった。
 ・問題行動や不登校、いじめなどの様々な問題や発達障害児や外国人児童生徒などに対応する支援員の配置により、一人一人に寄り添った個別支援や学校の指導体制の充実が進んだ。
 ・児童生徒が主体的に体を動かしながら運動に親しみ、運動が好きになるような取組を行事や授業の中で積極的に進めたため、運動に取り組む子どもが増えた。
 ・教育センター事業により、若手教員を対象とした学校訪問による指導や放課後を利用した児童への学習支援を行ったことで、授業に工夫が見られるようになり児童の学力の向上につながった。
 ・小中学校猛暑災害対策事業として、普通教室などの空調の整備が完了したことや机・椅子の更新、教室のロッカーの改修、校舎の内装改修を行ったことで快適な学習環境が整い、特に夏季の授業に臨む姿勢は大変向上した。
 ・安全で美味しく栄養バランスの優れた学校給食の提供により子どもの健康の一端を担った。

③ 施策の課題(基本計画で掲げた施策の「現状と課題」、「②施策の振り返り」を踏まえて、令和2年度、3年度に向けた施策の課題はなにか)

・新学習指導要領に則り、教職員の授業改善をさらに向上させる必要がある。GIGAスクール構想により整備されたPC端末を有効活用した授業改善や臨時休校の際の学びの保障のためのオンライン授業等の体制づくりが必要である。
 ・不登校児童生徒に加え、支援を必要とする家庭を支えるため、本年度設置した家庭子ども支援室において、こども相談センター等の関係機関と連携するとともに、事業や取組を拡充し、支援体制を充実させる必要がある。
 ・教育センター事業では、増加している若手教員に対する指導をさらに充実させ、児童生徒の育成につなげていく。また、放課後学習支援の対象学校数を増やし、児童の学力の向上を図る。
 ・引き続き、学校のトイレの洋式化をはじめとする改修を進め、安全安心で快適な学習環境の整備を図ることが必要である。また、給食センターの空調機器が老朽化しているため、特に夏季においては調理に適した環境作りが必要である。
 ・学校における新しい生活様式を基に手洗い、マスクの着用、換気等の徹底とともに感染防止のさらなる充実を図る必要がある。